



研究開発の成果を期待して

常務取締役
南陽工場長 山 本 俊 雄

国際化の時代が来る。自由化の時代が来る。国際化、自由化が云われて久しいが、本当の国際化、自由化は今、正に緒についたばかりであろう。

日本は経済大国ではあるが政治小国、軍事弱国である。従って、一般に思っているより速く国際化、自由化は進んでゆき日本の社会、特に産業社会への影響は大きく出よう。

その時、私達の東ソーが生き残り、繁栄して幸福（しあわせ）を実現してゆくためには、日本の化学工業が弱いとされている国際競争力を強くしなければならない。その為には一刻一秒でも早く効率的に経営に大きなプラスのインパクトを与える研究成果をあげなければならない。当然のことながら研究開発力技術力なくしてはこれからの国際化、自由化の時代に生き残れない。研究開発力、技術力なくしてはこれからの国際ビジネスのパートナーも技術のクロスライセンスの相手も出来ない時代が来る。研究開発の担っている責務は極めて重大であり大きな期待をされていることは云う迄もない。

それ故、我が社が研究開発に力を注ぎ相当の経営資源を投入し、私企業である以上その投資による利益を大いに期待していることは周知の事で蛇足を加えるつもりはないが、新規事業分野に関する研究開発では、時代を先取りする真に創造的な成果を効率的にあげ、将来東ソーを支える利益を生み出す柱となる事業展開の実現であり、又、基盤事業分野に関する研究開発では、科学技術史的にみて現在操業中の当社のプロセスには技術革新によって大きな変革が予感予見されるものがあり他社に先んじて研究開発し、自社革新技術によるそれらプロセスの革新を行い当社の基盤事業を盤石のものとする事である。

最後に研究開発の成功を期待して故事の言葉「李^り広^{こう}は石を以て虎となす」を引用して結びとします。